



あっという間に3月になり、今年度も残すところあと3週間ほどとなりました。「ありがとう遠足」をしたり、これまで描いたり作ったりしてきた作品の整理をしたり、卒園式の活動に向かい始めていたり……。締めくくりの活動の様子を見ていると、この一年間がいろいろと思い出されてきます。子ども達も「もうすぐ一年生！」「幼稚園に新しいお友達が入ってくるんだよね」など、進学・進級を楽しみにしている反面、年長児がいなくなってしまう寂しさや新しい環境への不安など、心が揺れ動いていることと思います。一人一人の思いやつぶやきに寄り添って、残り少なくなったクラスでの生活を元気に楽しく過ごせるようにしたいと思います。

## 憧れの年長児の姿を追いかけて…

2月の保育公開の時に、年長児は跳び箱や縄跳びなどできるようになった運動遊びを保護者の方に見てもらいました。それを「チャレンジ発表会」として、年少・年中組さんにも披露してくれました。遊戯室の前を通るたびに、年長児が一生懸命取り組んでいる様子を見ていた年少・年中児は、「どんなことをするんだろう」と期待感で一杯でした。保育公開の日からさらにできるようになったことが増えた年長児は、得意なこと2つを発表しました。大縄の中で飛ぶ縄跳び、鉄棒の逆上がり、跳び箱の5段・6段跳び、竹馬のいろいろな技、スイーと進めるようになった一輪車……。どのチャレンジでも「すごい」「カッコいいね」と目をキラキラさせて見ていました。そして次の日の朝、遊戯室を覗いてみると、年長児のチャレンジに交じって、年中児が跳び箱や鉄棒の順番の列に並んでいました。年長児が踏切台を両足で踏み切って跳び箱を跳ぶ様子や、鉄棒の逆上がりで足を勢いよくあげる様子をじっと見て、自分の番になったら真似てやってみようとしていました。見守る先生に「もう少しだね」「足を広げるといいよ」と励ましてもらったり、手伝ってもらったりしながら自分なりにチャレンジしていました。次第に、一緒にチャレンジする年長児からも、「もっと早く走ったら？」「クルンと回るんだよ」などアドバイスをもらい、できた時にはみんなから拍手をもらって大喜びの年中児でした。その後、年少児もやってきて、担任と一緒に竹馬や鉄棒をする姿が見られました。

3月1日は、今年度最後の「きらりん挨拶隊」の日。係の年長児がタスキをかけ、玄関で「おはようございます」「さようなら」と元気のいい声で挨拶をしました。登園する子ども達や保護者の方も笑顔で挨拶を交わし、気持ちの良いひと時でした。すると、挨拶隊の年長児の後ろに、数人の年中児の姿がありました。どうやら年長児の挨拶隊の姿を見て、どんな風に並んでどんなふうに挨拶をするのか、学ぼうとしていたようです。『来年は、自分達がこの挨拶隊をするんだ』という気持ちが感じられました。

この一年間、幼稚園のリーダーとして、いろいろな行事で係をしたり、進んで雑巾がけや庭の草取りをしたり、異年齢のペア活動やチーム活動で優しく接するなど、たくさんの場面で『優しくて』『頼りになる』『カッコいい』姿を見せてくれた年長児。そんな年長児に憧れの気持ちをもっている年中・年少児は、いろいろな気持ちや活動を引き継いでいってくれるに違いないと思いました。



年長児のチャレンジに交じってやってみようとする年少・年中児



年長児の挨拶隊の様子を後ろで見つめる年中児

〔平田図書館 読み聞かせ〕 2月15日

年少組：「ちいさなヒッポ」

「アントンせんせい」

年中組：「なにのあしあとかな」

「ねこがさかなをすきになったわけ」

年長組：「みかんきょうだいのたんけん」

「サイモンは、ねこである。」

「一ねんせいになったら」

マーシャ=ブラウン/さく、うちだりさこ/やく、偕成社/刊  
西村敏雄/作、講談社/刊

やぶうちまさゆき/作、福音館書店/刊

ひだのかな代/著、みらいパブリッシング/刊

ホソカワレイコ/作、BL出版/刊

ガリア・バーンスタイン/作、あすなろ書房/刊

まどみちお/詩、かべやふよう/絵、ポプラ社/刊